

新学習指導要領に見る新聞活用ポイント

監修：関口修司（日本新聞協会 NIE コーディネーター）

小学校

国語

<各学年の内容>

第1学年および第2学年の内容

[知識及び技能]

(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

○話し言葉と書き言葉

ウ(略)片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと

解説→擬声語や擬態語、外国の地名や人名、外来語など片仮名で書く語がどのような種類の語であるかを知り、実際に文や文章の中で片仮名を使うことを示している。

→ 新聞には、さまざまな種類のカタカナが掲載されている。新聞の中からカタカナを探して丸で囲んでいく、見つけたカタカナをグループに分ける、カードに書き出すなどの実践が考えられる。類似の活動として、学習した漢字を新聞の中から探す実践などもある。

第3学年および第4学年の内容

[思考力、判断力、表現力等]

A 話すこと・聞くこと

○話題の設定、情報の収集、内容の検討

ア 目的を意識して、日常生活の中から話題を決め(略)

解説→話題の設定については、学校や家庭、地域のことなど、児童が日常生活の中で興味や関心をもっていることから話題を決めることを求めている。情報の収集については(略)、第3学年及び第4学年では必要に応じて、本や文章を読んだり、人に聞いたりしながら調べることへと広がっていく。

→ 児童が日常生活の中で興味・関心を持っていることから話題を決め、本や文章を読んだり、人に聞いたりしながら情報を収集することを求めている。新聞には、社会、スポーツなどに関する最新の情報が掲載されており、児童の興味・関心を喚起するだけでなく、情報収集の素材としても適している。あらかじめ児童に伝えておくことで主体的に新聞記事をスクラップし、話題を見つけることもでき、授業の導入や調べ学習などで活用できる。取材の仕方の基本について出前授業等で新聞記者から話を聞く活動も効果的である。

B 書くこと

○題材の設定、情報の収集、内容の検討

ア 相手や目的を意識して（略）書くことを選び（略）、伝えたいことを明確にする

解説→相手や目的を意識してとは、題材を設定したり情報を収集したりする際に、不特定多数の人に対して文章を書くのか、特定の人に対して文章を書くのか、何のために書くのか、読み手はどのようなことを知りたいのかなど、文章を書く相手や目的を念頭に置くことである。

→ 相手や目的を意識して書くこと、伝えたいことを明確化することを求めている。相手や目的を意識して書くとは何かを学ぶ上で、新聞の読み比べは有効な教材となる。例えば、高校野球の地元出場校の試合記事などは、同じ試合結果でも、勝った側、負けた側のどちら側から報じるかで記事の内容が大きく変わってくる。「誰に何を伝えるために書くのか」ということを、中学年にも分かりやすく気付かせることができるだろう。見出しの違い（例、全国紙A「〇〇高校大勝 準々決勝進出」、地元紙B「△△高校健闘及ばず ベスト8逃す」）も分かりやすい。

また、手紙を書くときと（学級）新聞を書くときの文章の違いを読者に伝えるという視点から、出前授業等で新聞記者から話を聞く活動も効果的である。

B 書くこと

○言語活動例

ア 調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動

解説→（略）事実やそれを基に考えたことを書くとは、自分の考えと、それを支える理由や事例としての事実との関係を明確にして書くことである。このようにして書かれた文章については、例えば、学級新聞（略）など、日常生活で目にする形式にまとめることも考えられる。

→ 事実やそれを基に考えたことを書く活動例として、学級新聞づくりが挙げられている。新聞づくりを行うに当たっては、実際の新聞から新聞づくりの工夫を学ばせたい。新聞記事は、読者に伝えたいことを簡潔に伝えるための文章となっている。最低限必要な情報を盛り込む（5W1H）、重要な順に書く（逆三角形型の文章）といった点は、指導事項イの「書く内容の中心を明確にし、文章の構成を考える」上で役立つ内容だ。指導事項ウの「事実と意見を分けて書くこと」も記事の基本であり、これらを記事から学んだ上で新聞づくりを行えば指導の効果は高まるだろう。また、記事の書き方、新聞の作り方を、出前授業で新聞記者から学ぶことも貴重な体験となる。

C 読むこと

○精査・解釈（説明的な文章）

ウ 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること。

解説→要約するとは、文章全体の内容を正確に把握した上で、元の文章の構成や表現をそのまま生かしたり自分の言葉を用いたりして、文章の内容を短くまとめることである。（略）内容の中心となる語や文を選んで（略）要約することが重要である。

→ 要約を指導する上でも、新聞は適した教材と言える。新聞の見出しは究極の「要約」である。見出しには「内容の中心となる語」が必ず含まれている。記事と見出しの関係から、要約に必要な内容の中心となる語とは何かをつかませることができる。代表的な実践としては、見出しを隠した記事を読ませ、見出しを考えさせる活動が挙げられる。また、記事のキーワードや5W1H等を拾い出し、順番などを工夫しながらつなげて記事の内容を分かりやすく簡潔にまとめたリード（前文）も要約の参考となる。「B 書くこと」言語活動例アの新聞づくりとも絡めて指導したい。

第5学年および第6学年の内容

[思考力、判断力、表現力等]

A 話すこと・聞くこと

○表現、共有（話すこと）

ウ 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。

解説→資料を活用するとは、音声言語だけでは聞き手が理解しにくかったり、誤解を招きそうだったりする場合などに、資料を使いながら話すことである。資料を用いる目的としては、説明を補足したり、伝えたいことを強調したりすることなどが挙げられる。例えば、必要な文言や数値などを引用したり、実物や画像、映像などを用いたり、図解したものと重要な語句の定義付けなどを明示したりすることが考えられる。その際、目的や相手、状況などを踏まえ、話す内容と資料との整合、適切な時間や機会での資料の提示の仕方などに注意する必要がある。

○言語活動例

ア 意見や提案など自分の考えを話したり、それらを聞いたりする活動

解説→自分の考えを話したり、それらを聞いたりする言語活動例を例示している。

→ 指導事項ウは、話す内容を分かりやすく伝えるために、資料を活用するなど表現を工夫することを求めている。言語活動例アも踏まえた活動として、新聞スクラップと記事をもとにした1分間スピーチがある。自分で選んだ記事について決められた時間で友達に紹介する活動で、時間の設定は自由。日頃から新聞をスクラップしておく、適切な根拠を示し分かりやすく説明するための資料として活用できる。また、新聞記事は読者に分かりやすく伝えるための工夫として、図表やグラフのほか、写真、イラスト、地図、キーワード解説などを用いている。資料の有効な提示の仕方を学ぶ上でも、参考になる

だろう。話題の設定においても、小学校では日常生活の中から設定するとしているが、中学校では社会生活の中から設定することが求められるようになる。小学校高学年段階から、日常生活の延長に社会生活がある。社会生活の話題を発表することに慣れておくことも重要だろう。

A 話すこと・聞くこと

○構造と内容の把握、精査・解釈、考えの形成、共有（聞くこと）

エ 話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え（略）

解説→話し手の目的に応じて話の内容を捉えるとは、話の目的は何か、自分に伝えたいことは何か、共に考えたいことは何かなどを踏まえて、話の内容を十分に聞き取ることである。自分が聞こうとする意図に応じて話の内容を捉えるとは、自分はどのような情報を求めているのか、聞いた内容をどのように生かそうとしているのか、そのためにどういった情報を相手から引き出そうとしているのかなどを明確にして聞くことである。

○言語活動例

イ インタビューなどをして必要な情報を集めたり、それらを発表したりする活動。

解説→情報を集めるためにインタビューをするとは、目的をもって特定の相手に質問し、必要な情報を聞き出すことである。そのようにして集めた情報について、話したり文章にまとめたりして発表する活動についても例示している。

→ 指導事項エは、相手の意図を考えて話を聞くこと、聞いた情報の活用方法を意識して聞く内容を考えることなどを求めている。言語活動例イは目的をもって質問し、必要な情報を聞き出して活用する活動を例示している。新聞記者は記事を書くプロであると同時に、話を聞くプロでもある。分かりやすい記事を書くには、十分な取材が欠かせない。必要な情報（5W1H等）を漏らさず聞く、できるだけ具体的に聞くといったことから、目を見て話す、相づちを打つといったことまで、取材のノウハウは多岐にわたる。実際の新聞記事を活用しながら新聞社の出前授業を利用してこれらを学ぶことは、相手に伝わる文章を書く力を付けるだけでなく、コミュニケーション力の向上にもつながるはずだ。

B 書くこと

○題材の設定、情報の収集、内容の検討

ア （略）集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。

解説→集めた材料を分類したり関係付けたりするとは、（略）例えば、集めた材料を、目的や意図、相手に応じて、主張の理由、事例として適切なものを選んだり、優先順位

を考えて並べたりすることである。(略)また、賛成の立場から集めた材料と反対の立場から集めた材料とに分類することで、一方の立場からの材料の不足に気付き、更なる情報収集の必要性を感じることも考えられる。(略)なお、情報を収集する対象や手段としては、本や文章、パンフレットやリーフレット、雑誌や新聞、音声や映像、インタビューやアンケートなど様々なものが考えられる。

→ 伝えたいことを明確にするために、集めた情報を整理することを求めている。情報を収集するための対象・手段に新聞が挙げられているが、ここではただの情報収集先にとどまらず、論理的な文章を学ばせる材料にもしたい。新聞記事からは、事実や主張を補強するために、取材内容をどのように活用しているかを学ぶことができる。例えば、課題を箇条書きにした記事からは、適切な事例を選んだり、優先順位を付けて並べたりしていることが分かる。両論併記の記事からは、一方の立場に偏らずに情報を収集していることが分かる。また、同じ問題に関する記事を複数紙で読み比べることで、事実の切り取り方の違いや事例選択、優先順位が変わってくることに気付かせることもできる。

B 書くこと

○考えの形成、記述

エ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること

解説→引用する場合は、まず何のために引用するのかという目的を明確にすることが必要である。(略)引用した部分と自分の考えとの関係などを明確にすることなどに注意することも必要である。図表やグラフなどを用いるのは、示すべき事実が、図解したり、表形式やグラフ形式で示したりする方が分かりやすい場合である。

→ 自分の考えなどがより伝わる文章にするために、引用したり、図表やグラフを用いたりすることを求めている。新聞は、読者により分かりやすく伝わるよう、識者コメントを引用したり、図表やグラフのほか、写真、イラスト、地図などを用いたりしている。文章をより適切に説明したり補助したりするために、どのような工夫をしているかを学ばせるのに適した教材であると言える。

B 書くこと

○言語活動例

ア 事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。

解説→(略)意見を述べる文章を書くとは、理由や事例を明確にしなが、筋道を立てて自分の考えを述べることである。例えば、自分の考えを、異なる立場の読み手に向けて主張する文章や、自分たちの生活をより良いものにするために提案する文章、事

物のよさを多くの人に推薦する文章などを書くことが考えられる。

→ 意見を述べる文章を書く言語活動では、新聞への投書も有効だ。限られた文字数で自分の考えを論理的に書く訓練になるほか、身近な問題について自分の経験をもとに書くことができるので、児童の興味関心を喚起しやすい。掲載されている投書から題材を見付けることもできる。同年代の投稿文に対して、「共感した」「反対だ」など自分の意見を理由や根拠を明らかにして発信するのもよい。また、掲載されることで「自己肯定感が高まる」「意欲的に書く活動に取り組むようになる」など、学びに向かう力を育む効果も期待できる。

C 読むこと

○精査・解釈（説明的な文章）

ウ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。

解説→論の進め方について考えるとは、(略)書き手は自分の考えをより適切に伝えるために、どのように論を進めているのか、どのような理由や事例を用いることで説得力を高めようとしているのかなどについて考えを持つことである。(略)文章と図表などを結び付けるなどして読むとは、文章中に用いられている図表などが、文章のどの部分と結びつくのかを明らかにすることによって、必要な情報を見付けたり、論の進め方を捉えたりすることである。

→ 書き手が、自分の考えをより適切に伝えるためにどのような構成で書いているか、説得力を高めるためにどのような事例等を用いているかを考えて読むこと、文章と図表等を結び付けて読むことなどを求めている。論の進め方については、新聞の1面コラムが参考になる。コラムは最近のニュースをテーマにすることが多いため、児童の興味関心が高い内容を探しやすい。読者の興味関心を引くための導入、主張を裏付ける事実の選び方など、伝えたい内容を分かりやすく伝えるための工夫を学ぶ格好の材料となる。また、上記「B 書くこと」指導事項エでも述べたように、新聞は文章に加え、図表やグラフ、写真、イラスト、地図などを用いて、読者により分かりやすく伝わるよう表現を工夫している。説得力を高めるための新聞の工夫、文章と図表等の関係などを意識して指導することで、児童の読解力向上につなげたい。

C 読むこと

○言語活動例

ア 説明や解説などの文章を比較するなどして読み、分かったことや考えたことを話し合ったり文章にまとめたりする活動。

解説→(略)取り上げる文章としては、説明や解説の文章のほか、意見、提案、報道などの文章が考えられる。これらの文章を比較しながら読むことにより、共通点や相違点が明確になり、それぞれの文章をよく理解することにつながる。(略)日常生活において考えをまとめる際に、単一の情報のみに基づくのではなく、複数の情報を比較や分類をしたり、関係付けたりして検討することが必要である。

ウ 学校図書館などを利用し、複数の本や新聞などを活用して、調べたり考えたりしたことを報告する活動。

解説→(略)複数の本や新聞などとは、同じテーマについて異なる書き手による本や文章、異なる新聞社による新聞記事などが挙げられる。(略)調べたり考えたりしたことを報告するとは、複数の本や新聞などに書かれていることを比較、分類、関係付けるなどして分かったことと、それらを基に考えたことをまとめて、文章に書いたり発表したりすることである

→ 複数の情報を比較するなどして考えたことをまとめる活動や、複数の情報をもとに調べ学習をする活動が挙げられている。教科書に掲載されている架空の新聞記事を読み比べることもできるが、ここでは実際の新聞を読み比べさせたい。論調の異なる新聞の読み比べのほか、写真の読み比べ、全国紙と地方紙での読み比べ、新聞とさまざまなニュースサイトの記事の読み比べなど、さまざまな方法が考えられる。学校図書館の活用の際には、司書教諭や学校司書、図書館ボランティアなどの協力を得て、同じ題材を取り上げている各紙の記事を切り抜いて、ストックしておいてもらうことも有効な手立てだ。

<国語科の内容>

知識および技能の内容

(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

○語彙

解説→(略)語句の量を増すことと、語句のまとまりや関係、構成や変化について理解することの二つの内容で構成している。(略)重点として示された語句のまとまりを中心としながら、学習の中で必要となる多様な語句を取り上げることが重要である。学習の中で語句を使うことを通じて、日常生活の中でも使いこなせる語句を増やし、確実に習得していくことが重要である。(略)

(3) 我が国の言語文化に関する事項

○読書

解説→(略)読書は、国語科で育成を目指す資質・能力をより高める重要な活動の一つである。自ら進んで読書をし、読書を通して人生を豊かにしようとする態度を養うた

めに、国語科の学習が読書活動に結び付くよう発達の段階に応じて系統的に指導することが求められる。なお、「読書」とは、本を読むことに加え、新聞、雑誌を読んだり、何かを調べるために関係する資料を読んだりすることを含んでいる。

→ 発達段階に応じた系統的な読書指導の中では、小学校段階から新聞に親しませることにも留意したい。小学校では、読書の幅を広げることや、読書が自分の考えを広げること気付かせることなどが求められている。新聞には、社会で起きているさまざまな事象が掲載されており、興味関心のある記事を見付けることができるだけでなく、意図しない記事に目が止まり、自分の興味関心を広げるきっかけにもなる。そこから、学校図書館にある本などでさらに詳しく調べる活動につなげることもできる。また、語彙を増やす上でも新聞が果たす役割は大きい。日常的に新聞を読む習慣のある子供たちは、文章に難しい語句があっても文脈からだいたいの意味を把握することができるようになる。だいたい分かる言葉の領域を増やすことが語彙力の向上につながっていくのだ。語彙を増やす上では、コラムや記事を視写させることも有効な実践の一つと言えよう。

以 上